

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 1 月 22 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	法学研究科
留学(渡航)した時の学年	二年生
帰国年月日	2024 年 12 月 28 日
明治大学卒業予定年月	2025 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	カナダ
留学先大学	ヨーク大学(日本語名) York University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024 年 8 月～2024 年 12 月
留学先大学で在籍した学年	特になし 年生
留学先の所属学部等	☒ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 国際教養学部 現地言語での名称: Liberal arts & Professional Studies ☐ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☐ 公立 ☒ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月上旬～12 月下旬 2 学期: ～ 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	約 55,000
創立年	1960 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (CA\$1) (1 現地通貨 = 110 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	6,572	円	
食費	3,000	円	
図書費	50	円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費	270	円	
現地交通費	350	円	(☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	50	円	
旅費(留学中)	1,000	円	
被服費	700	円	
医療費	0	0 円	
保険費	310	66,240 円	形態: 明治大学: 66,240 円 York: CA\$310
渡航旅費		405,280 円	
ビザ申請費		21,900 円	
雑費	0	0 円	
その他	0	0 円	
その他	0	0 円	
合計 ※現地通貨 および 円	12,302 (= 1,353,820 円)	493,420 円	
総計(A+B) ※円		1,847,240 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地：成田空港 目的地：トロント・ヒアソン空港 経由地：カルガリー国際空港	
復路 出発地：トロント・ヒアソン空港 目的地：羽田空港 経由地：	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社： 料金：	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社：WestJet 料金：268,800 復路 航空会社：Air Canada 料金：136,480 ∴合計：405,280	
航空券購入方法	
☐ 旅行代理店(店名：) ☒ インターネット(サイト名：Ctrip) ☐ その他()	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)	
☐ 学生寮(寮の名前：) ☒ アパート ☐ ホームステイ	
2) 部屋の形態	
☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)	
3) 共有部分	
☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)	
4) 住居を探した方法：	
ヨーク大学からのメールに従い、希望するアパートを申請しました。	
5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
寮と比べて、アパートは家賃が少し高いですが、オープンやコンロが備え付けられているので、様々な料理を作ることができました。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☒ なし

☐ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

SNS を使うことで危険地域を調査して、そうした場所を避けながら生活を送っていました。犯罪に巻き込まれることもなく、安全に過ごすことができました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地で利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使えない時はカフェに行った。)

基本的に、キャンパス内やアパート内ではインターネットが安定して繋がります。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本のクレジットカードを使って現地で生活費用を支払い、日本の銀行口座からクレジットカードの返済を行っていました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

なし。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
9 単位	☐ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☒ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Language and the Law	言語と法
科目設置学部・研究科	Liberal arts & Professional Studies
履修期間	Fall
単位数	3.00
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が 2 回
担当教授	Dakota Wing
授業内容	当該コースでは、言語学という学問分野が法制度における言語の使用についてどのように光を当てることができるかを探求する。主なトピックには、法的文書言語の特性、法廷における話し言葉、そして言語学者が専門家証人として果たす役割が含まれる。
試験・課題等	レポート 3 回と期末試験 1 回
感想を自由記入	この授業を通じて、法廷、警察署、弁護士事務所など、法律事務が取り扱われる場所で日常的に使われる英語を身につけることができました。また、Dakota Wing 先生の教え方が面白く、学生たちは楽に知識を学ぶことができました。将来、法律事務に関する仕事を目指すものには、この授業はお勧めです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Philosophy of Law		法哲学
科目設置学部・研究科	Liberal arts & Professional Studies	
履修期間	Fall	
単位数	3.00	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義とチュートリア (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 2 回	
担当教授	Michael G Giudice	
授業内容	当該コースでは、法律規則の独自の特徴とは何か、それが社会における他の種類の規則や規範とどのように区別されるのか? 「法的義務を負う」とはどういう意味なのか、そしてなぜ法律に従うべきなのか? 法律と道徳の関係とは何か? などの課題を巡って検討を行う。	
試験・課題等	小論文 1 回と期末試験 1 回	
感想を自由記入	この授業では、「法律とは何か」という本質的な課題を検討することを通じて、法学研究の手法を身につけることができました。将来、法学の研究者を目指すものには、この授業はお勧めです。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
The Politics of Law		法政治学
科目設置学部・研究科	Liberal arts & Professional Studies	
履修期間	Fall	
単位数	3.00	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義とチュートリア (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 2 回	
担当教授	Jacqueline D Krikorian	
授業内容	学生たちに政治学と法の関係性を研究するための基礎を紹介する。これらの学問分野の研究におけるさまざまなアプローチに触れ、国内および国際的な法的領域における制度、関係者、そしてプロセスの間での動的な相互作用を強調した。統治の文脈において法の政治を検討することにより、これらの分野における主要なテーマを分析する。取り上げた問題には、性労働者の権利や食品安全、特許制度、環境問題などが含まれている。	
試験・課題等	レポート 2 回、期末試験 1 回	
感想を自由記入	この授業では、政治や人権の視点からカナダの憲法について研究しました。また、カナダ憲法を学ぶだけでなく、その限界や今後の課題についても検討しました。将来、政治家を目指すものには、この授業はお勧めです。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	語学試験の準備
	8 月 ～ 9 月	語学試験の受験
	10 月 ～ 12 月	選考
留学開始年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	ビザ申請、航空券購入、寮の申請
	8 月 ～ 9 月	渡航
	10 月 ～ 12 月	期末試験・帰国
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留學生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私が留学を決定した理由は以下の二つがある。一つ目は英語力を向上させること、もう一つ目は他国の法律を学ぶことである。そのため、英語圏の大学に留学することにした。特に、ヨーク大学は Osgoode Law School という有名なロースクールを擁し、法学に強みがあるため、ヨーク大学を留学先として選んだ。

実際の留學生活は、自分が想像したものとはかなり違っていた。困難なこともあれば、喜びに満ちた経験もある。最も苦勞した点は、授業の難しさである。これまでの授業では、先生が一方向的に知識を教える形式が多かったのに対し、ヨーク大学では「学生の参加」が強調されている。例えば、講義形式の授業では、学生は積極的に質問することが期待され、チュートリアル形式の授業では、学生はグループワークで課題を検討することが要求される。時には、学生が自分でフィールドワークを行うことを要求される。最初では、フィールドワークのやり方が分からず、また、自分の英語力に自信がなくてグループワークで発言するのをためらうこともあり、非常に辛い生活を送っていた。しかし、先生とクラスメートに相談しながら英語の練習を重ねて、これらの問題を克服でき、ヨーク大学での勉強生活にもだんだん慣れてきた。

困難を経験する一方で、多くの喜びもあった。特に驚いたのは、友達を作ることが想像以上に簡単だったことである。ヨーク大学およびヨークアパートでは、定期的にパーティやイベントが開催されており、これらの機会を通じて、様々な文化や国、地域の人々と出会い、親しくなることができた。日本に戻った現在でも、カナダで出会った友達とオンラインパーティを作って一緒に楽しむことがある。

ヨーク大学での留學生活は、予想以上に大変なことも多く、当初は困難に直面した。しかし、それ以上に多くのことを学び、得るものがあつた。この経験を通じて、異文化理解や国際的なネットワークを築くことができただけでなく、自分自身の成長を実感することができた。これからも、この貴重な経験を活かして、より多くのことに挑戦していきたいと考えている。